

29年8月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 8月1日～ 29年8月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/8月	9月	10月
伐採動向	スギ	△ 10.0	10.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	0.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	エゾ・トド	25.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	0.0	10.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	0.0
	カラマツ	△ 37.5	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	40.0	0.0	△ 12.5
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	12.5	0.0	0.0
	エゾ・トド	16.7	16.7	16.7

・スギの伐採動向は8月の減少から9月は増加、10月は再び減少に。ヒノキは8月の横ばいから9月は減少、10月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは8月の増加から9月、10月は横ばいに。

・スギの出荷・販売動向は8月の横ばいから9月は増加、10月は減少に。ヒノキは8月の横ばいから9月は減少、10月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの手持立木在庫動向は8月の増加から9月は横ばい、10月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは8月の増加から9月、10月は横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続増加。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のカラマツ間伐の素材生産請負事業を実施中。地形等の条件が良いが夏休みを考慮し、伐採動向は横ばい（北海道）。
- ・国有林のトドマツ間伐の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギ・カラマツともに伐採は控え目（東北）。
- ・スギ間伐の素材生産を本格的に開始（東北）。
- ・スギ間伐はやや減少（関東）。
- ・スギ主伐は当月横ばい、翌月やや増加、翌々月はやや減少。ヒノキは3カ月連続横ばい（中国）。

(出材・販売動向)

- ・国有林のカラマツ間伐の素材生産請負事業を実施中。地形等の条件が良いが夏休みを考慮し、出材・販売動向は横ばい（北海道）。
- ・トドマツの出材調整はしていない（北海道）。
- ・出材・販売動向は、スギ・カラマツともに伐採減に伴いやや減少（東北）。
- ・スギの出材調整はしていない（東北）。
- ・出材調整はない（関東）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木の在庫は、国有林の立木公売でトドマツを応札する予定のためやや増（北海道）。
- ・国有林の請負事業を実施中のため、立木在庫は横ばいで変動なし（北海道）。
- ・スギの立木買入は消極的、カラマツの買入は強め（東北）。
- ・スギの手持ち立木在庫はなし（中部）。